



# ねじれや割れを生じにくい道産カラマツ建築用材をつくる

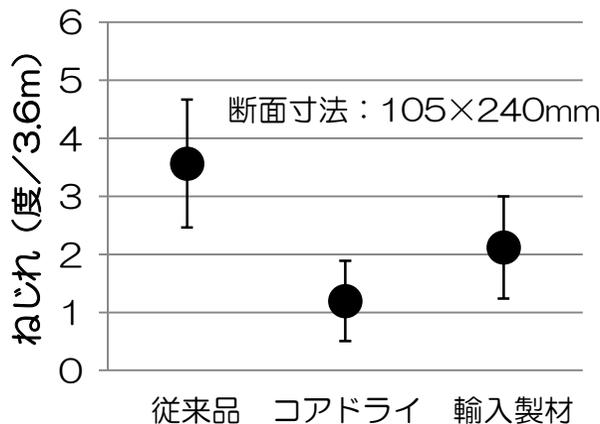
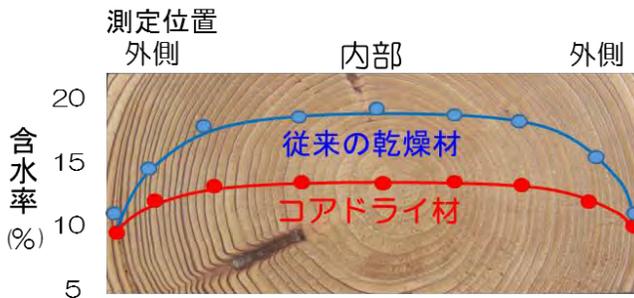
従来より大型のコアドライ材を開発しました

## 背景

- カラマツは、北海道の代表的な植栽木ですが、乾燥時のねじれや割れが多く、建築用材としてはあまり用いられていませんでした。
- 林産試験場では、住宅の柱として使われる105mm角の材について、それらを抑制する生産技術（コアドライ）を開発しました。
- 一方、住宅の梁・桁に使われる大型の木材については、コアドライ技術が確立していませんでした。

## 成果

- 1 ねじれや割れが生じにくい大型材のコアドライ技術の開発  
内部の含水率を15%以下にすると、大型材でもねじれが抑制できます。



## 期待される効果

- ねじれや割れといった欠点が低減された大型の梁・桁材の生産が可能となったことから、一般住宅から公共建築物までの建築用材としての道産カラマツの利用促進が期待されます。

共同研究機関：北方建築総合研究所

協力機関：林業試験場、工業試験場、北海道水産林務部、北海道木材産業協同組合連合会、北海道森林組合連合会 等

問い合わせ：道総研 林産試験場 電話：0166-75-4233



※コアドライは品質確保のため、認証制度を運用しています。



- 2 技術普及への体制づくり  
コアドライ認証材料に梁・桁材を追加するとともに、関連する建築設計資料を作成・公開して、容易に利用できるようにしました。

